

5人の牧場を結んだ道 ～酪農家集団 AB-MOBIT

馬場 晶一 (ばば しょういち)
酪農家集団AB-MOBIT 代表

北海道の最東端に位置する根室市は日本有数の酪農地帯です。手つかずの大自然の中で酪農を営んでいる酪農集団^{エービー}AB-^{モビット}MOBITさんにお話を伺いました。

《牧場をつなぐフットパス》

2001年4月、当時農協の青年部の役員であったUターン組5人の酪農家で、「何か新しい風を吹かせたい!」という思いから、^{あつこ}厚床から^{べつとうが}別当賀まで「歩くことを楽しむ道」フットパスを造りました。

AB-MOBITの「AB」は、Aは厚床、Bは別当賀の駅の頭文字、「MOBIT」はこの区間で酪農を営んでいるメンバー5人の頭文字です。普段何気なく生活している自分たちの地域を見直してみると、自然豊かかとても美しいことに気づき、この酪農の暮らしや農村景観を都市住民と共有し、たくさんの人を呼ぶことで地域活性化にもつながり、そして酪農を守ることにものではないかと考えました。

2003年からは、昨年亡くなられた高野ランドスケーププランニング(株)会長高野文彰氏にアドバイスを受け、ワークショップ形式でルート整備を行い、今もその手法で大学のゼミ合宿などで続けられています。



3日間で組上げたログハウスの前で(2012年専修大学泉ゼミ)



《わが村は美しくー北海道とともに20年》

根室フットパスは、牧場の中を歩くフットパスで、四つのルートがあります。厚床パス、^{はつたうし}初田牛パス、別当賀パス、^{あけさと}明郷パス、それぞれに特徴があり、年間2,000人の利用を超えた時からレストランやキャンプ場も整備し、歩く人にとって飽きることなく楽しめる工夫をしてくれています。

この「わが村は美しくー北海道」の受賞がきっかけで、たくさんの人達との出会いがありました。その中で大きく影響したのが、高野氏から学んだ「学生とともに道づくり」の教えでした。学生との交流のおかげで、20年間活動が継続でき、続けてきたことが地域おこしにつながり、地元でのマリビジョンやシーニックバイウェイにも関わることになりました。酪農の仕事の合間にルート整備などを行ってききましたが、20年という月日はあっという間で、現在も設立当時のメンバーで活動していますし、まだまだ、フットパスの道の延長を考えています。

今、コロナ禍の中、フットパスなら密になることもなく、思いっきり根室の大自然を一年中楽しむことができます。車の移動とは違い、自分のペースで歩くとまた違った発見ができます。また、自然に触れることで環境の保全を考えるきっかけになったり、牧場の成立ちに触れると根室の酪農に魅力を感じたり、牛乳の^{あじ}美味しさの秘密もわかったりします。根室の美味しいものを食べて、心も身体も元気になりましょう!

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。